

## 市内景気動向調査結果

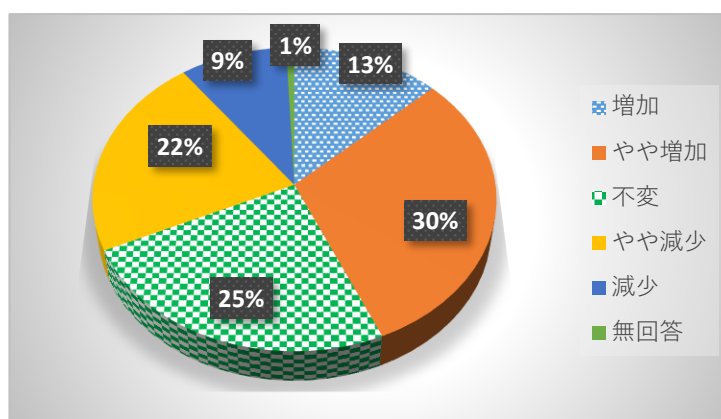
この調査は、第2四半期（令和4年7月から9月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し、当商工会員より回答いただいたものです。

| 有効回答数 | 建設業 | 製造業 | 運輸業 | 卸小売業 | サービス業 | その他 |
|-------|-----|-----|-----|------|-------|-----|
| 138   | 35  | 21  | 11  | 27   | 30    | 14  |

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業

### 1. 売上高はどう変化したか。

|      |     |
|------|-----|
| 増加   | 18  |
| やや増加 | 42  |
| 不変   | 34  |
| やや減少 | 30  |
| 減少   | 13  |
| 無回答  | 1   |
| 合計   | 138 |

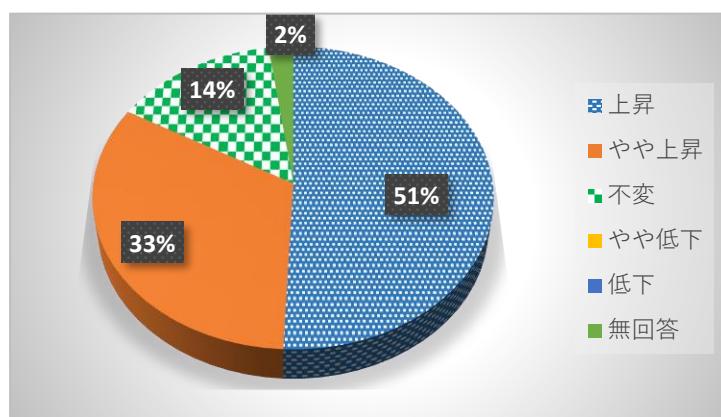


#### 【コメント】

- 増加・やや増加が43.5%、不変が24.6%、やや減少・減少が31.2%であった。前年同期では、増加・やや増加が37.0%、不変が21.2%、やや減少・減少が41.8%であったので、悪化傾向にある。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が54.5%、建設業が51.4%、卸小売業が44.4%、サービス業が40.0%、製造業が33.3%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、製造業が47.6%、卸小売業が33.3%、サービス業が30.0%、その他が28.6%であった。
- 社会経済活動が活発になり、売上増加に繋がった。ただし原材料価格高騰分を販売価格に転嫁したため売上増となった事例もあった。
- 今後は、人手不足による販売機会の損失や販売価格上昇による買い控えの影響が懸念される。

### 2. 仕入単価はどう変化したか。

|      |     |
|------|-----|
| 上昇   | 70  |
| やや上昇 | 45  |
| 不変   | 20  |
| やや低下 |     |
| 低下   |     |
| 無回答  | 3   |
| 合計   | 138 |



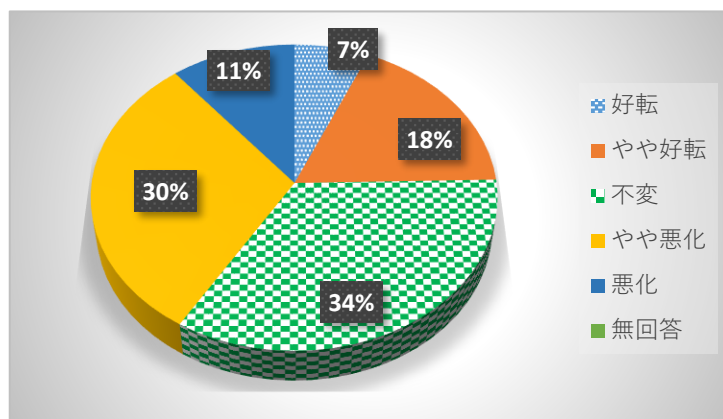
#### 【コメント】

- 上昇・やや上昇が83.3%、不変が14.5%、無回答が2.2%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が54.1%、不変が39.0%、やや減少・減少が5.5%であった。

- 上昇・やや上昇の業種別割合は、卸小売業が96.3%、製造業が95.2%、建設業が94.3%で、その他の業種でも60%を状況であった。
- 原材料、エネルギー価格の高騰がすべての業種で仕入単価上昇に影響を与えた。
- 引き続き仕入価格の上昇が予想されるため、販売価格へ転嫁する必要があるが、値上げできるかが今後の経営に大きく影響する。

### 3. 採算について

|      |     |
|------|-----|
| 好転   | 9   |
| やや好転 | 25  |
| 不変   | 47  |
| やや悪化 | 42  |
| 悪化   | 15  |
| 無回答  |     |
| 合計   | 138 |

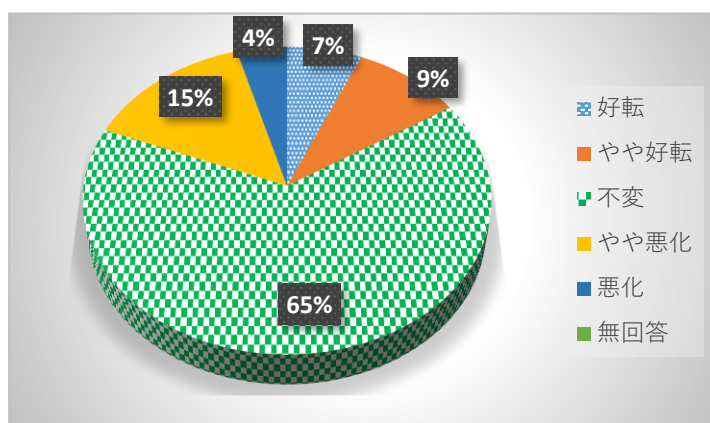


#### 【コメント】

- 好転・やや好転が24.6%、不変が34.1%、やや悪化・悪化が41.3%であった。前年同期の好転・やや好転が23.3%、不変が34.2%、やや悪化・悪化が41.8%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が59.3%、その他が50.0%、製造業が47.6%、建設業が34.3%となっている。
- 前年同期との比較では、同程度の割合となっているが、原材料、エネルギー価格の高騰に加え、人手不足、人件費の上昇が進めば、採算が急激に悪化する恐れがある。

### 4. 資金繰りについて

|      |     |
|------|-----|
| 好転   | 9   |
| やや好転 | 13  |
| 不変   | 90  |
| やや悪化 | 20  |
| 悪化   | 6   |
| 無回答  |     |
| 合計   | 138 |

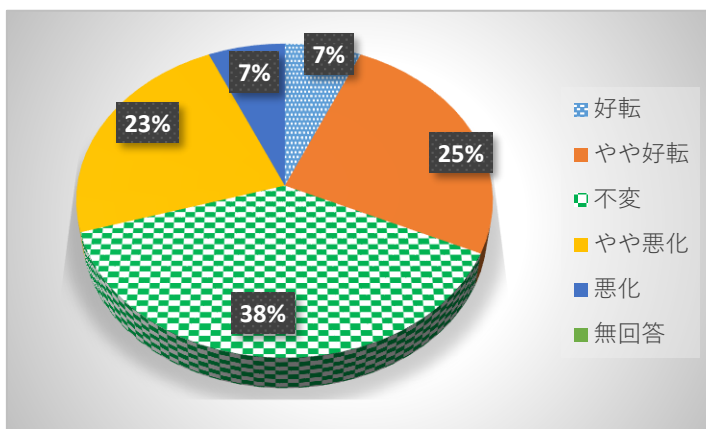


#### 【コメント】

- 好転・やや好転は15.9%、不変が65.2%、やや悪化・悪化が18.9%であった。前年同期の好転・やや好転が13.7%、不変が61.0%、やや悪化・悪化が24.0%であった。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、卸小売業が29.6%、その他が28.6%となっている。
- 仕入・原材料価格、人件費の上昇分を売上に転嫁できない業種、企業はますます採算が悪化し、資金繰りが厳しくなる。
- コロナ資金等の据え置き期間が過ぎ返済が始まっている中、早めに借り換え等の対策を実施する必要がある。

## 5. 業況について

|      |     |
|------|-----|
| 好転   | 9   |
| やや好転 | 35  |
| 不変   | 53  |
| やや悪化 | 32  |
| 悪化   | 9   |
| 無回答  |     |
| 合計   | 138 |

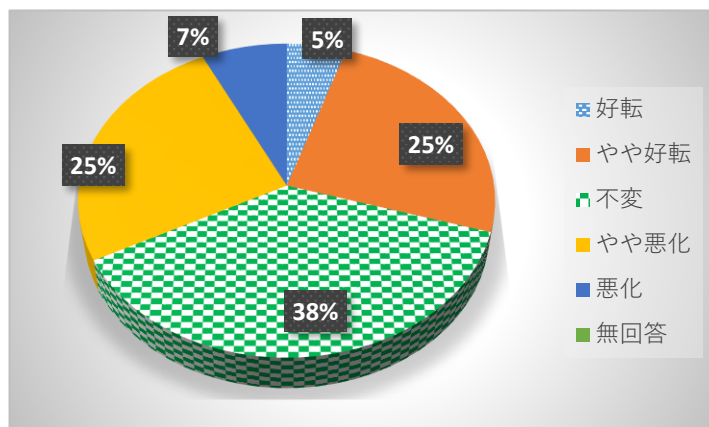


### 【コメント】

- 好転・やや好転は31.9%、不変が38.4%、やや悪化・悪化が29.7%で、前年同期は、好転・やや好転が25.3%、不変が39.0%、やや悪化・悪化が34.2%であった。
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が48.2%、その他が35.7%、製造業が33.3%であった。卸小売業とその他の業種では好転・やや好転を大きく上回った。
- 国内旅行支援や円安による来日外国人など、人流増加で一部で業況が改善が期待される。

## 6. 今後3ヶ月間の業況について

|      |     |
|------|-----|
| 好転   | 7   |
| やや好転 | 34  |
| 不変   | 52  |
| やや悪化 | 35  |
| 悪化   | 10  |
| 無回答  |     |
| 合計   | 138 |



### 【コメント】

- 好転・やや好転が29.7%、不変が37.7%、やや悪化・悪化が32.6%で、前期（本年4～6月）では、好転・やや好転が27.5%、不変が43.1%、やや悪化・悪化が28.4%であったことから、現状よりも業況が悪化すると予想している方が多い状況となっている。
- 中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻、新型コロナの感染拡大、記録的な円安の状況が改善されない限り、業況が好転することの期待ができない。

## ■ 回答事業所からのコメント

### 【建設業】

- 公共事業の減少
- 防水業全体は良くなって来ている。自社の仕事取りびかえが原因
- 今後、高騰 人材不足など対応がむずかしい
- 昨年からは工事施工件数は増加しているが、昨年からの資金繰りの悪化から回復までには至っていない。

- 10月～12月にかけて安定した売上が見込まれる10月～12月にかけて設備投資の予定があるので資金繰りの調整を図ると同時に健全な運営を進めたい。
- 今年度まではボールパークがらみで高レベルの安定となっている。来年度からは従来の受注に向けて過度な負担は避ける。
- 仕事の状況はかわりなく、単価だけが上がり、多少現場の利益率が下がっています。
- 人手不足が問題です。
- 元請けの新規開拓（札幌異業種交流会等）地元の繋がりにより受注増加
- 建設関係が急激に人手不足となり全体に忙しくなった事に依って単価も少し上がって、やや好転に変化している様です。
- 原材料費の高騰に加え、半導体需要増による購入製品の長納期化の影響で客先のニーズに十分応えられない事が原因と考えられる。
- 物価値上げ
- 一般の動きはあまり変化はないが、企業関係は動きが出て来ているのが主要因と考えられる。
- 7月から9月にかけては、4月に実施されました住宅リフォーム助成金支援のおかげで前年比より売上増となりましたが、10月からはメーカー各社の製品及び資材の大幅な値上げにより、消費者の購買意欲の鈍化が予測されます。
- 今年は雪害の仕事が大半です。仕事の量としては多いのですが、保険対応の仕事も多く、次、次とはいかない事と、足場やさんも大量の足場掛けで、1カ月～2カ月待ちとなり、足場を掛けてもらえない。労働者も高齢化になり、仕事のスピードが遅く、2日で終わる仕事も3～4日かかり、売上につながっていないのが現状。材料代他も毎月の様に値上げのお知らせが入って来るので、利益もうすくなる。
- ボールパーク工事関係の工事が増えている為
- Q2 コロナ禍、補助事業などの終了による Q3～5 原価上昇による利益の減少 Q6～7 少しづつではあるが受注が増えている。

#### 【製造業】

- ・ランサムウェア（サイバー攻撃）からの回復 ・海外ロックダウンが無く、安定する見込み ・機器調達がやや回復
- 業況自体は好転してきているが、資金繰りについてはもう少し時間が必要。新型コロナのマーケットに対する影響が少なくなりつつあるため。
- 全体的な業況に変化はないが、前年同期間に一過性の売上があったため、今期は減収減益となった。
- 仕入、ガソリン他の値上り、最低賃金の変更による社保などの負担増など。販売先にはなかなか値上げができない。
- コロナ禍で落ち込んだ観光需要が戻りつつあり、主力商品である「白い恋人」の売上も回復してきているため。
- 主力事業である業務用製品が急激に回復を見せており、御節事業も今年更に拡大する見込であるため。
- コロナ、ウクライナ問題の資材高の影響が大きく出てきている。大型物件は動きは変わらないが、中小の物件が減少が大きい。
- 電気代、仕入れ部品の値上がりが目につきます。よりグローバルな動きを改めて考え直す必要を考えます。
- 売上は値上げ実績と新規ルート売上増で不変。11月に再度値上げがあり影響大か。
- 人手不足、業務の減少（コロナ感染者の増加による）
- コロナ禍ではあるが、道内で花火大会を再開した所が増えた。例年並みとはいかないが、ここ2年間を考えると大幅に増えたから。
- 円安が続き、国外産の材料が高騰な上に輸出されない状況が続くため、対企業の仕事が今まで通りとはいかなくなる。
- 仕入に関して、メーカーによっては3カ月毎に10～15%の値上げがあったり、最低でも年に2回程度の値上げがされているため、弊社も2回の値上げをせざるを得ない状況になったが、今後客離れが懸念される。

- コロナウイルス第7波により需要が増えており、売上を押し上げております（3年前のパンデミックほどではありませんが）。ただすでに終息方向へ向かっており、売上減少と冬特有の経費（暖房、除雪など）が発生するため、業況は悪化すると見込んでおります。
- 半導体不足やロシアのウクライナ侵攻により、製器が作れなくなり、結果産廃物が減少した。油の価格が高騰したため、再生重油の販売が好調であったため。
- 価格の大幅増加の影響が大きく、販売数量は過去に前例が無いほど。この時期としては大きな低迷となっている。
- 工場生産量は今現況は増加（受託量発注増）傾向にあったが、それ以上に燃料費等の価格高騰による、あらゆる包材資材の値上げに工場運営エネルギーの高騰による負担が大きく増え、結果的には生産増による利益上げより負荷が増し、状況悪化の状況が続いている。改善方向が見受けず更に増していくと思われる。工場運営を改善していく方向で進めているが、それ以上の値上げで負荷が増加している。

### 【運輸業】

- 最低賃金のアップが10月から実施されるため
- 10月からもさらに値上がりです。原油高騰によりフェリー料調整金、燃料とダブルの値上りで先が見えないです。
- コロナ禍における規制緩和により学生団体、インバウンド団体に増加のきざしがあるため。
- 全国旅行支援がスタートしたことで、昨年同時期よりは期待が持てそう。
- 昨今のデジタル化（ネット販売など）に伴い、通販業界からのメール便が減少しています。車輛経費の増大がマイナス材料です。

### 【卸小売業】

- コロナ、ウクライナなど
- 仕入、配送費、燃料等の上昇
- Q2 週末休日の客数増加 Q7 値上げによる客数減少
- ・仕入値が上昇し販売しづらくなりました。よって前値のままで販売すると採算悪化につながります。
- これからも仕入単価の上昇がつづくので今後はきびしい
- 仕入価格の上昇で利益が少なくなる。仕方ないと思うが、どこにブツけたら良いかわからない。
- 今年は新型コロナがおちつきを見せて、店頭にて低価格のマスク、アルコールが減り、通常に戻りつつある。今後はインフルエンザ、ノロウイルスが新型コロナと同時流行のきざし（オーストラリアの例などから）があり、除菌水の売上増が見込まれる。ただ、原料コスト、経費の上昇があり、採算はきびしい。
- 新規来店店の増加
- 今年ははちみつがあまり採れず、経費ばかりかかりました。仕入も大幅に値上りました。
- 客数は前年を割る中、値上による単価上昇、まとめ買いによる買い上げ点数の上昇または維持により売上を維持している。燃料高騰、生活防衛意識への顧客の関心の高まりが大きく感じられ、商品動向にも変化が見られた。
- 読者、折込の減少、人件費、ガソリンをはじめ諸経費の上昇
- テナント入店先（元）の変更により、販売力・集客力の弱体化が顕著に・・・
- 自販機台数が減少している。
- 売上高の上昇と仕入単価の上昇を価格に転嫁したため。
- 仕入価格高騰と販売価格の値上げのバランスが思うように取れず、景気が良くなったとは思えない。
- 北広島市については日本ハムファイターズ移転関連における新規需要の増加が見られると感じている。

### 【サービス業】

- コロナに慣れてゴルファーが復活した。コンペの開催、ツアー客の増加
- 新規顧客の増加、付帯作業推進効果など

- 屋外スポーツ（ゴルフ）が人気になっているため。
- 保護者様、ご家族の経済状況の悪化が予想されるため
- 様々なイベントや行事参加、継続的な広告、チラシ等により、認知度が向上した事と、現状の生徒の保護者からの紹介が増えた事は、日頃の取組に対する一定の評価を頂けた事と考えます。
- ・始めたばかりなので実績＝前年比に対する増加となる。 ・従業員（社員、パート、アルバイト）が増えれば好転する。
- 特に変わりはない。
- 物価高
- 景気悪化！
- 支出に対する意識の変化が見られる。（利用控え、入居問合せ件数の減少など）
- 9月はリアル講習2回、オンライン講習1回開催出来たが、10月は依然として厳しい状況にある。売り上げはやや上向いてきているが、経費の値上がりが25～30%に至っている。
- 昨年インターネット広告の業者との取り引きを終了したのと、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数が徐々に低下した。今年も、その影響が多大にあり、客足が戻らない。Q7については、10月に入り収入的に割の良い方が通院して頂いているので、7～9月と比較して数カ月は収入のアップが見込める。

#### 【その他】

- 貸店舗が空いたから
- 全ての物品が値上げと寒さに向かったの準備等で客足がにぶると考えられます。
- とにかく物価が上昇しすぎている。飲食店は簡単に値上げ出来るわけではないのできびしい。
- 1.仕入価の上昇 2.業務縮小
- コロナの緩和により留学生も入国でき、入居につながってきている。
- 不動産は地価が上がりすぎているため、購入したい人が購入できない状況になるつつあります。そのため、動きが確実に減少しており、需要供給のバランスがくずれているため、今後は値下がりしていく可能性が高いと思います。
- 売上高はやや好転しているものの、円安、物価高の影響から先行きは楽観できない状況
- コロナ禍による影響と物価の上昇
- 原因が沢山ありすぎて、、、、
- ・来客数の減少 ・原材料費の上昇分を価格転嫁出来る状況に無い（出来ていない）
- 鳥肉、たまねぎ、炭、備品すべて値上りしています。経費節減し、努力しておりますが、限界をむかえ、150→170円で値上げしました。何とか生き残っています。
- コロナ禍の中でも経済活動を行う様な仕組みや流れが出来ている。
- 料金交渉で値上げによる
- コロナ禍による経済活動の縮小の影響は依然として続いており、更に仕入原価の価格上昇の影響が大きい。
- 建設材料の高騰で新築案件がキャンセルされている。
- 資材等の値上げや燃料、光熱費の高騰により、経費が圧迫されている。
- 経済全体を廻す方向となり、観光シーズンによる人流の動き等も活性化であったことから、クリーニング業務も、予算対比での売上げ上乘せが出来た状況となった。今後10～12月は、全国旅行支援策が実施される模様だが、業務的な閑散時期となる関係やコロナ以外の感染症の流行がどのように影響するかによって変動するか不透明感がある。また、仕入れ資材等の第2・3回の値上げ、季節的な重油単価の上昇により、経費全般比率の上昇が想定でき、3カ月間では収支減少となる見込み。